

**委託事業実施内容報告書**  
**平成29年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業**  
**【地域日本語教育実践プログラム(A)】**

**内容報告書**

団体名： 学習院大学

**1. 事業の概要**

事業名称	自律的な学びを促す日本語教育—地域に開かれた大学をめざして—
事業の目的	1997年から実施している日本語教室を基礎として、2013年度以降、若者世代向けと生活者向けの二つの日本語教室を実施してきた。2017年度は、外国人の生活者としての学習ニーズや学習環境に合わせた日本語教育プログラムを実施しつつ、生活のための日本語を自律的に学ぶことを促す教材の開発を行う。さらに、自律的な学びを促す教室活動やプログラム設計を行う人材の育成を目的とした研修を実施する。各種公共施設、交流団体などの協力も得ながら教材を作成し、一般社会の人々の地域に暮らす外国人及び彼らの日本語学習に対する理解を深める。日本語教育を通じ、知(地)の拠点として、地域に開かれた大学となることをめざす。
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	事業開始時に下記のような課題があった。豊島区は現在、26,390人の外国籍住民が暮らし、これは区人口の約9.3%である(平成28年10月1日現在)。増え続ける外国人に比して、区内8つの日本語教室に継続的に参加する人は少なく、各教室の共通の課題となっている。これは、地域の教室が在住外国人のニーズや学習条件・学習環境、「学ぶ力」のレディネス等に十分にできていないからだと考えられる。在住外国人が生活する上で最低限必要となる日本語を身に付けられる日本語教室運営、自律的・自立的に日本語学習を続ける環境作りが求められている。
事業内容の概要	本事業では以下の3つの取組を通じて上記の課題を解決した。 ①日本語教育の実施(「学ぶ力」を身に付ける「生活のための日本語」教室)：在住外国人の日本語学習ニーズやレディネス(日本語能力、学習条件)を配慮し、自ら日本語を学び、使うことを促す日本語教育プログラムを設計し実施した。 ②日本語教育を行う人材の養成・研修の実施(「自律的な学びを促す環境作り」を目指した研修)：日本語学習・日本語使用に対する動機づけをし、動機の維持をはかるための活動のあり方、学ぶ力の育成方法、自律的な学習を促す環境作り等をテーマに研修を実施し、学習者の学ぶ力や日本語能力に配慮した授業計画・運営のできる人材を育成した。 ③日本語教育のための学習教材の作成(自律的な学びを促す「生活のための日本語」教材の開発)：自律的・継続的な学習を可能とする環境作りを目指し、学習者自身が学びを展望・管理できる教材、日本語学習・使用が促される教材を開発した。
事業の実施期間	平成29年5月～平成30年3月 (11か月間)

**2. 事業の実施体制**

**(1) 運営委員会**

【運営委員】

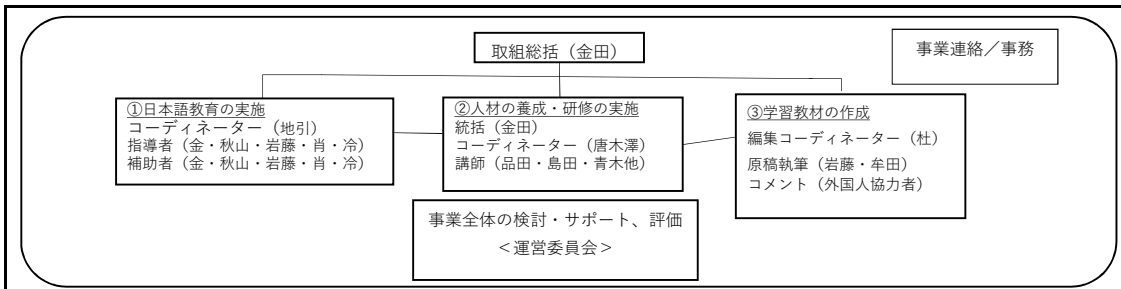
1	金田智子	学習院大学文学部
2	村野良子	学習院大学文学部
3	黒江裕子	豊島区文化商工部学習スポーツ課生涯学習グループ
4	品田潤子	公益社団法人国際日本語普及協会<AJALT>
5	吉田聖子	あけぼの会
6	米勢治子	東海日本語ネットワーク
7	文野峯子	人間環境大学



【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成29年6月30日(金) 13:00～15:30	2.5時間	学習院大学 南1号館106号教室	金田智子、黒江裕子、品田潤子、文野峯子、吉田聖子、小林立明、野田佳代、地引愛、唐木澤みどり、社長後	1. 平成28年度事業の成果及び課題に関する意見交換 2. 平成29年度事業における3つの取組に関する検討
2	平成29年11月21日(火) 14:30～17:00	2.5時間	学習院大学 南1号館207号教室	金田智子、米勢治子、文野峯子、吉田聖子、小林立明、野田佳代、地引愛、唐木澤みどり	1. 取組1(日本語教室)の実施状況と現段階の課題の検討 2. 取組2(研修)の実施状況と課題に関する意見交換 3. 取組3(教材作成)の成果物に関し、課題の確認
3	平成30年2月24日(土) 10:30～13:00	2.5時間	学習院大学 中央教育研究棟 5階507号教室	金田智子、黒江裕子、文野峯子、吉田聖子、米勢治子、小林立明、野田佳代、地引愛、唐木澤みどり、社長後	1. 3つの取組の実施報告と、来年度に向けての課題検討 2. 今年度事業の評価 3. 来年度の計画に関する意見交換

**(2) 事業の実施体制**



**(3) 地域における連携体制**

学習院大学を拠点として、豊島区学習・スポーツ課生涯学習グループを通じた地域との連携を推進している。豊島消防署への出張授業の依頼を通じ、外国人の日本語学習や日本理解を推進するだけでなく、受入れ側が、外国人に対する理解を深めることや外国人に効果的に情報を伝える工夫をすることを促している。また、区内の他の日本語教室から研修(ブラッシュアップ講座)への参加者を募り、教室間の横のつながりを強化すると同時に、情報交換・意見交換、学習者の紹介等、協力関係を築いており、今年度もそれを強化することに努めた。

3. 各取組の報告

日本語教育の実施【活動の名称:「学ぶ力」を身に付ける「生活のための日本語」教室 <教室A:わくわくクラス>】									
目的・目標	1. 在住外国人が地域社会で安全かつ快適な生活を送るために必要となる日本語を身に付ける。日本語を使用する上で必要となる社会文化知識を理解する。 2. 日本語学習及び日本語使用に対する動機付けを高める教材・学習ポートフォリオを活用し、有効な活動を実施することを通じ、継続的・自律的な学びにつながる力を養う。								
対象	*豊島区及び近隣地域在住・在勤の外国人(特に、学習機会に恵まれず、生活のための日本語が身につけていない人々) *2017年度は日本語を学習した経験のない外国人、単語やあいさつなどの定型表現以外は使えない外国人、ひらがな・カタカナの読み書きが難しい外国人を主な対象とした。								
取組の内容	<p>・地域社会で生きていくために必要な日本語と社会文化知識を扱う日本語教室を企画・運営した(「学習院大学わくわくとしま日本語教室」)。災害発生時や緊急時の対応、医療機関の受診など、生命にかかわる事柄に対処するために、さらには、地域の住民として快適に暮らすために、最低限必要となる日本語を習得する。同時に、安心・安全・快適な生活を行う上で、日本人との接触機会を増やすことや、日本語でやりとりをしあう人間関係を築くことが重要だと考え、人と知り合い、関係を築き、社会を広げていくための日本語を身に付けた。日本語学習に自律的・自立的に取り組むことのできる基礎作りをするため、学び方を意識する活動を取り入れたり、学びやすくするための各種ツールを紹介したりすると同時に、自己評価及び学習管理の方法を知ることのできる学習ポートフォリオを活用した。標準的なカリキュラム案に準拠しつつも、長年日本に暮らしながら、就業・育児等により学習機会に恵まれなかった人たち、来日間もない人たちの学習ニーズに応えた内容・方法とした。指導者には外国人も配置し、媒介語や多文化性を生かした授業を展開した。</p> <p>・「標準的なカリキュラム案」を参考とし、病院や交通機関の利用、地震等緊急時の対応など、日本で生活する上で必要度が高いと思われるテーマを扱った。併せて、東京消防庁豊島消防署目白出張所のご協力による通報訓練をはじめとする実践的な授業を通して、本教室修了後の自律的な学びを促した。また、毎回の授業に、文字学習や「学ぶ力」を身に付けるための時間を10分程度設け(10分コーナー)、スマートフォンアプリやインターネット辞書を利用しながら、ひらがな・カタカナの読みから申込書、メールの書き方までを学び、自律的・継続的な学習を促した。</p>								
実施期間	平成29年7月1日～平成30年2月10日			曜日・時間帯		土曜日(10:00～12:30)			
開催回数	全75時間(1回2.5時間×30回)			開催場所		学習院大学			
参加者	総数 34人 (日本語学習者26人、協力者(ゲスト等)8人)			使用した教材・リソース		自主作成教材(参照【日本語教育のための学習教材の作成】自律的な学びを促す「生活のための日本語」教材 主教材、副教材 第1課～第25課)			
出身・国別内訳(人数)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン
	11	3	0	0	0	0	0	0	2
カリキュラム案活用	参加学習者の背景や滞在目的、言語環境、日本語使用場面、日本語能力等を把握した上で、「標準的なカリキュラム案」に準拠したコースデザインを行った。また、学習者の自律的な学びの促進、日本語能力の把握、学習の成果及び本取組の効果を把握するために、「日本語能力評価について」を参考に、ポートフォリオを開発しており、それに修正を加えつつ使用した。								
日本語教育の実施内容									
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名	
1	平成29年7月1日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 西1号館 306室	10	あいさつ	①自律的・継続的な日本語学習を行うために、学習ポートフォリオを使用し、長・中・短期の目標を作成する。 ②近所の人と遭遇した時に、簡単なあいさつができることを目標に、時間に合わせて挨拶表現を練習し学習者同士で、ロールプレイを行う。 【10分コーナー】自分の名前をカタカナで書けることを目標に、50音表から自分の名前を探し、書く活動を行う。	【前半】地引愛 【後半】岩藤かおり	秋山文菜 【前半】冷俊俊(通訳) 肖翔(通訳) 金紅艶(通訳)	
2	平成29年7月8日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 西1号館 306室	11	買い物① (対面で)	コンビニやデパートの地下などで対面で買い物ができることを目標に、個数の言い方を練習し、学習者同士でロールプレイを行う。 【10分コーナー】メニューなどにあるカタカナが読めることを目標に、わからないカタカナを50音表から見つけ、発音する活動を行う。	地引愛	岩藤かおり 秋山文菜 冷俊俊 肖翔	
3	平成29年7月15日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 西1号館 306室	10	ドラッグストア	ドラッグストアで薬剤師に症状を簡単に説明し、薬を購入することができることを目標に、症状の言い方などを練習し、学習者同士でロールプレイを行う。 【10分コーナー】レストランで料理名を読み上げ、注文できることを目標に、長音の表記を見て、発音する活動を行う。	社長俊	岩藤かおり 冷俊俊 肖翔 金紅艶	
4	平成29年7月22日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 南1号館 201室	9	道聞き① (建物内で)	デパートなどでほしい物の売り場やトイレ等施設の場所を聞いてわかることを目標に、階数を尋ねる表現や方向を示す表現を聞く練習をする。そして、実際に大学職員にトイレ等施設の場所を尋ねて、そこへ行く。 【10分コーナー】ドラッグストアにある商品の表記を見て、どんな商品か理解できることを目標に、50音表からひらがなを探し、読む活動を行う。	金紅艶	岩藤かおり 秋山文菜 冷俊俊 肖翔	
5	平成29年7月29日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 南1号館 201室	7	電車	目的地までの電車での行き方について尋ね、乗る電車と乗換駅がわかることを目標に、ホーム番号や乗る電車を尋ねる表現を練習し、教師とロールプレイを行う。 【10分コーナー】メニューや駅名などにある促音の表記を見て、発音できることを目標に、表記と発音のルールを知り、読み上げる活動を行う。	地引愛	岩藤かおり 秋山文菜 冷俊俊 肖翔	

6	平成29年8月5日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 西1号館 306室	9	ごみ	ごみの種類と捨てる曜日がわかることを目標に、曜日の漢字を読む練習やごみの種類がわからない時に近所の人に聞く表現を練習し、学習者同士でロールプレイを行う。 【10分コーナー】特別なごみを自治体のルールに従って捨てることができるように、「キケン」「スプレー」「ふるぬの」といった、ごみに関する注意書きを、見本を見ながら書く活動を行う。	岩藤かおり	秋山文菜 冷俊俊
7	平成29年8月19日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 西1号館 306室	5	道聞き② (街中で)	街中で道に迷った際に、通行人に目的地までの行き方を聞いてわかることを目標に、目印となるもの名前や方向を示す表現を聞く練習をし、教師とロールプレイを行う。 【10分コーナー】駅名や看板などにある拗音の表記を見て、発音できることを目標に、表記と発音のルールを知り、読み上げる活動を行う。	肖栩	岩藤かおり 冷俊俊
8	平成29年8月26日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 西1号館 306室	5	レストラン① (入店)	レストランで店員と入店のやりとりができることを目標に、人数の言い方や待ち時間を尋ねる表現を練習し、教師とロールプレイを行う。 【10分コーナー】食べたい料理のレストランに入店できることを目標に、レストランの店頭のメニューボードを見て、どんな料理があるか読む活動を行う。	岩藤かおり	なし
9	平成29年9月2日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 西1号館 306室	6	レストラン② (注文・会計)	レストランで、料理を選んで注文することができることを目標に、料理名がわからない際の注文表現や会計を依頼する表現を練習し、教師とロールプレイを行う。 【10分コーナー】食べたい料理を決め、注文できることを目標に、メニューを読み、予算内で注文できるものを決める活動を行う。	冷俊俊	なし
10	平成29年9月9日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 西1号館 306室	7	レストラン③ (実践)	①自律的、継続的な日本語学習を行うために作成した短期目標の達成度を自己評価する。 ②近隣のそば屋に赴き、教室内で学習したレストランでの店員とのやりとり(入店・注文・会計)を実際に行い、達成度を自己評価する。 【10分コーナー】そば屋のメニューを読み、注文できるように、そば屋によくある特別な料理名を知り、メニューを読み上げ、注文するロールプレイを行う。	地引愛	岩藤かおり 冷俊俊
11	平成29年9月16日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 西1号館 306室	8	近所の人との会話① (行きつけのお店)	①自律的、継続的な日本語学習を行うために、これまでの学習を振り返りながら、学習ポートフォリオを使用し、短期的な目標を作成する。 ②行きつけのレストランで、店員に話しかけたり、店員の質問に答えたり、お礼の意を伝えることができることを目標に、家族に関する名称や簡単なお礼の言い方を練習し、教師とロールプレイを行う。 【10分コーナー】申込書に書いてある「名前」「住所」「生年月日」「電話番号」を見て、そこに何を書くか分かることを目標に、代表的な漢字の形と意味を知り、様々な申込書からそれぞれの文字を探す活動を行う。	【前半】地引愛 【後半】杜長俊	岩藤かおり 冷俊俊 肖栩
12	平成29年9月23日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 西1号館 306室	9	地震・火災① (避難指示)	地震や火災等、緊急時の避難指示を聞き、適切な行動をとれることを目標に、よく使われる避難指示を聞く練習を行い、簡易的な避難訓練を行う。 【10分コーナー】申込書等の書類を見て、名前を書く欄に名前を書けることを目標に、様々なタイプの申込書から「名」という漢字を探し、自身の名前を書く活動を行う。	冷俊俊	岩藤かおり 秋山文菜 肖栩
13	平成29年9月30日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 西1号館 306室	9	地震・火災② (防災グッズの購入)	ホームセンターやデパートで、防災グッズの使い方を店員に聞き、自分や家族のために非常用持ち出し袋を準備できることを目標に、使い方を尋ねる表現を練習した上で、実際の防災グッズの使い方を尋ねながら、グループで非常用持ち出し袋に入れるものを考え、発表する。 【10分コーナー】申込書等の書類を見て、住所を書く欄に自身の住所を書けることを目標に、様々なタイプの申込書から「住」という漢字を探し、自身の住所を書く活動を行う。	秋山文菜	岩藤かおり 冷俊俊 肖栩
14	平成29年10月7日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 西1号館 306室	13	消防車・救急車① (119番通報訓練)	自宅での火災などの緊急時において、119番に電話し、消防車及び救急車を呼べることを目標に、名前や住所、状況に関する質問に答える練習をし、教師とロールプレイを行う。 【10分コーナー】申込書等の書類を見て、生年月日と電話番号を書く欄に正しく情報を書けることを目標に、様々なタイプの申込書から「生」「電」という漢字を探し、自身の情報を書く活動を行う。	岩藤かおり	秋山文菜 肖栩
15	平成29年10月14日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 西1号館 305室	15	消防車・救急車② (消防署連携授業)	自宅での火災などの緊急時において、119番に電話し、消防車及び救急車を呼べることを目標に、通報訓練用の電話を使用し、消防士とロールプレイを行う。	地引愛	岩藤かおり 秋山文菜 冷俊俊 肖栩

16	平成29年10月21日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 西1号館 306室	11	病院① (初診受付)	症状に合った病院を選び、問診票提出までの初診受付ができることを目標に、病院の看板の漢字や受付でのやり取りを練習し、教師とロールプレイを行う。 【10分コーナー】返信用封筒に自身の名前と住所を適切に書くことを目標に、指定のフォーマットに合わせた住所の書き方を確認し、実際に封筒に差出し人名を書く活動を行う。	肖栩	岩藤かおり 秋山文菜
17	平成29年10月28日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 西1号館 306室	7	病院② (診察)	医師に症状を簡単に説明し、診察を受けられることを目標に、症状の表現や医師からの指示表現を聞いてわかる練習をし、教師とロールプレイを行う。 【10分コーナー】指定の書式に合わせて、生年月日が書けるように、西暦と和暦の違いを知り、様々なタイプの申込書に書式に合わせて、正しく生年月日を書く活動を行う。	岩藤かおり	秋山文菜 冷俊俊 肖栩
18	平成29年11月4日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 西1号館 306室	10	交番	交番で警官に紛失物と紛失状況について簡単に説明できることを目標に、財布の色や形、特徴に関する表現を練習し、学習者同士でロールプレイを行う。 【10分コーナー】紛失物届けに必要な情報を書けることを目標に、自身の基本情報を記入した上で、辞書アプリ等を使いながら、何を書く欄か確認し、紛失届を記入する活動を行う。	地引愛	なし
19	平成29年11月11日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 西1号館 306室	9	病院③ (検診の予約)	区役所からの検診の手紙が届いた場合に、自分が受けられる検診がわかり、検診の予約ができることを目標に、希望する日にちや時間を言う練習をし、教師とロールプレイを行う。 【10分コーナー】検診の申込書に必要な情報を書けることを目標に、自身の基本情報を記入した上で、辞書アプリ等を使いながら、何を書く欄か確認し、検診の申込書を記入する活動を行う。	杜長俊	秋山文菜 冷俊俊 肖栩
20	平成29年11月18日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 西1号館 306室	9	お知らせの手紙	①断水、停電など住居に関わるお知らせの手紙を読み、適切な行動がとれることを目標に、日にちや時間の読み取りをし、翻訳アプリを使いながら、詳細を知った上で、教師とロールプレイを行う。 ②自律的、継続的な日本語学習を行うために作成した短期目標の達成度を自己評価する。	【前半】杜長俊 【後半】地引愛	岩藤かおり 【後半】 冷俊俊(通訳) 肖栩(通訳)
21	平成29年12月2日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 西1号館 306室	10	初対面の人との会話 ① (出身地について)	①自律的、継続的な日本語学習を行うために、これまでの学習を振り返りながら、学習ポートフォリオを使用し、短期的な目標を作成する。 ②相手の出身地を聞いて、それに関わる話を簡単に展開できることを目標に、有名なものを聞く表現などを練習し、学習者同士でロールプレイを行う。	地引愛	岩藤かおり 秋山文菜 冷俊俊 肖栩
22	平成29年12月9日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 西1号館 306室	11	買い物② (試着)	希望するサイズ、色の服や靴等を買えることを目標に、希望するサイズがあるか尋ねる表現などを練習し、学習者同士でロールプレイを行う。 【10分コーナー】携帯電話で簡単な言葉を入力できることを目標に、フリック入力の方法を知り、自身の名前を入力する活動を行う。	冷俊俊	なし
23	平成29年12月16日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 西1号館 306室	10	郵便	郵便局員に料金や配達にかかる日数を尋ね、荷物を希望の方法で郵送できることを目標に、より早く到着する方法の尋ね方などを練習し、教師とロールプレイを行う。 【10分コーナー】年賀メールを作成できることを目標に、年賀状の意味やよく使う表現を知り、どんなことを書きたいかメモする活動を行う。	地引愛	冷俊俊
24	平成29年12月23日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 西1号館 306室	6	近所の人との会話② (長期休暇の予定について)	相手との関係に合わせて、長期休暇の予定について話せることを目標に、休暇中の予定を尋ねたり、話したりする表現を練習し、学習者同士でロールプレイを行う。 【10分コーナー】年賀メールを送れることを目標に、教師やクラスの人宛に送る年賀状メールを作成する活動を行う。	地引愛	冷俊俊 肖栩
25	平成30年1月6日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 西1号館 306室	6	近所の人との会話③ (お土産を渡す)	相手の文化に合わせて、どんなお土産かがわかるように説明し、渡せることを目標に、味に関する表現や渡す際の表現を練習する。また、お土産を受け取れることを目標に、受け取る際の表現を練習し、実際に持参したお土産を学習者同士で渡し合う活動を行う。 【10分コーナー】電子メールで旅行の写真を送り、適切なメッセージを書けることを目標に、メールの構成やよく使われる表現を知り、メールを作成する活動を行う。	冷俊俊	岩藤かおり 肖栩
26	平成30年1月13日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 西1号館 306室	9	初対面の人との会話 ② (職業や趣味について)	仕事や休日の話ができることを目標に、職業や趣味に関する表現を練習し、ペアで会話をつくって発表する。 【10分コーナー】旅行の写真のメッセージが送られてきた際に、適切な返事が送れることを目標に、よく使われる表現を知り、適切な返信メールを作成する活動を行う。	地引愛	岩藤かおり 秋山文菜 冷俊俊 肖栩

27	平成30年1月20日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 南1号館 106室	7	近所の人との会話④ (食事やイベントに誘う)	クラスメイトや友人を食事やイベントに誘えることを目標に、誘う際の表現や断る際の表現を練習し、教師とロールプレイを行う。 【10分コーナー】電子メールで欠席と遅刻のメッセージを送れることを目標に、メールの構成やよく使われる表現を知り、メールを作成する活動を行う。	肖 翔	岩藤かおり 秋山文菜 冷俊俊
28	平成30年1月27日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 南1号館 106室	5	文化紹介	実物を見ながら、自文化の食べ物や飲み物を他文化の人に簡単に説明できることを目標に、味や作り方に関する表現を練習し、自文化の食べ物について発表する。 【10分コーナー】電子メールで約束の日程調整を行うメッセージを送れることを目標に、メールの構成やよく使われる表現を知り、メールを作成する活動を行う。	秋山文菜	冷俊俊
29	平成30年2月3日(土) 10:00~12:30	2.5	学習院大学 南1号館 105室	7	初対面の人との会話③ (自己紹介)	場面に合わせた自己紹介ができることを目標に、相手に自分の名前をわかりやすく説明したり、ニックネームを伝える表現を練習し、みんなの前で自己紹介を行う。 【10分コーナー】電子メールで友だちをイベントなどに誘えることを目標に、メールの構成やよく使われる表現を知り、メールを作成する活動を行う。	岩藤かおり	秋山文菜 冷俊俊
30	平成30年2月10日(土) 10:00~12:30	2.5	目白庭園	9	文化紹介 (実践)	①実物を見せながら、自文化の食べ物や飲み物を他文化の人に簡単に説明し、質問に受け答えをする。 ②自律的、継続的な日本語学習を行うために作成した長・中・短期目標の達成度を自己評価する。	岩藤かおり	秋山文菜 冷俊俊 【後半】 金紅艶(通訳)



## (1) 特徴的な活動風景(2~3回分)

### ○取組事例①

【第4回 平成29年7月22日、第10回 平成29年9月9日】

「学ぶ力」を身に付けるプログラムの一環として、授業で学習したことを教室外で使用し、実践する機会を設けた。7月22日は、デパートなどでほしい物の売り場やトイレ等施設の場所をきいてわかることを目標に、階数を尋ねる表現や方向を示す表現を聞く練習をした。その後、実際に学習院大学の職員に、トイレ等施設の場所を尋ね、そこへ行くという活動を行った。(写真:左から1枚目・2枚目) 9月9日は、レストランで店員と入店のやりとりや料理を選んで注文し、会計の依頼ができることを目標に、学習院大学の近隣のそば屋へ赴き、事前に授業で学習した①入店、②注文、③会計の依頼を実践する活動を行った。(写真:左から3枚目・4枚目)



### ○取組事例②

【第12回 平成29年9月23日以降の10分コーナー】

自律的・継続的な学びにつながる力を養うための活動として、教室で学習した漢字を教室外(街中や駅など学習者の生活の中)で探し、携帯電話で撮影し、教室内で共有する活動を行った。

<①漢字学習>教材を使用し、漢字を探す活動など、漢字を学習している様子。(写真:左)

<②共有>ある学習者が持参した写真を見て、他の学習者が学習した漢字を探している様子。(写真:中央、右)



## (2) 目標の達成状況・成果

### 1. 日本語能力の向上と社会文化知識の習得について

・10回ごとに継続的に通い続けた学習者(1回~10回:7名、11回~20回:9名、21回~30回:6名、延べ22名、異なり10名)を対象に、教室の内容や自分の日本語能力を振り返るアンケートを行った。アンケートによると、1名の学習者を除いては、教室に通ったことによって、「日本語が上手になった」と、日本語能力の向上を肯定的に自己評価していた。(1名は「変わらない」と評価した。)

・どの学習者も「日本語を使う機会が増えた」、「日本で生活しやすくなった」、「日本の文化・社会・習慣の知識が増えた」など使用機会の増加や社会文化知識の獲得について肯定的に自己評価をしていた。

・授業外でのインタビューにおいて、具体的な行為について尋ねると、ひらがな・カタカナが読めるようになった、人に頼らずに郵便局に行けるようになったなど、学習した場面においてできる行為が増えたという意見が聞かれた。また、配偶者の家族や近所の人と以前より日本語を話すようになった、自信を持って話せるようになったなど、周囲の人々と日本語を通して関わりを持つことができるようになったという感想があった。さらに、学習者の日本語学習を記録・支援するツールとして「学習ポートフォリオ」を使用し、4回(第1回、第10回、第20回、第30回)にわたって、「とよた日本語能力判定」の「とよた日本語能力レベル」の評価軸を参考に学習者が日本語能力の自己評価を行った。その結果、どの学習者も「話す」「聞く」を中心に、日本語能力の向上を感じていることがわかった。

・コーディネーターと日本語指導者が「とよた日本語能力判定」の「とよた日本語能力レベル」の評価軸を参考に、学習者とのやりとりや成果物から学習者の日本語能力の判定を行った。継続的に教室に通った学習者の結果を見ると、教室に通う時点で未学習段階(レベル0)または基礎段階(レベル1)だった学習者は、「聞く」「話す」に関しては、要支援段階(レベル2)への日本語能力の伸長が見られた。また、教室に通う時点で要支援段階(レベル2)だった学習者は、「聞く」「話す」に関しては、自立段階(レベル3)または、限りなく自立段階(レベル3)に近い要支援段階(レベル2)と判定でき、少くはあがあるが、日本語能力の伸長が見られた。

以上のことにより、学習者の自己評価、コーディネーターと日本語指導者による能力判定から日本語能力の向上と社会文化知識の獲得について一定の成果があるといえるだろう。しかし、日本語能力の伸長が実感できていない学習者がいることや、学習者のアンケートで、学習した場面以外では、日本語を使うことが難しいという回答があったこと、そして、「読み」「書き」の能力に関しては、要支援段階(レベル2)と判定できなかったことなどから、授業で直接的に学んだ内容以外における日本語能力の向上や、「読み」「書き」の能力の向上に関しては、課題が残っている。

### 2. 継続的・自律的な学びにつながる力の養成について

・継続的に通い続けた学習者を対象におこなったアンケートにより、日本語学習時間の増加や配偶者の家族・近所の人との日本語での会話機会の増加など、継続的・自律的に日本語を学ぼうとする学習者の学習態度の変容が見られた。また、授業内と授業外において学習者の日本語学習を記録・支援するツールとして「学習ポートフォリオ」を使用し、長期・中期・短期の目標を立てた。短期目標に関しては、学習者が自ら達成を振り返り、新たな短期目標を設定する機会を設けた。その結果、授業に対する理解度を上げるという目標から、教室で学んだことを実践するという目標への変化がみられる学習者もあり、継続的・自律的な学びにおいて、ある程度の成果があるといえよう。

・長期・中期の目標に関しては、振り返る機会を設けなかった。また、コース修了後の授業外でのインタビューにおいて、別の日本語教室に通いたいが、見学の依頼等の電話をする自信がないという相談があった。これは、日本語能力があるにも関わらず、次の学びの場へ踏み出す勇気がないということであろう。このことにより、修了後の学習機会の確保を促す仕掛けや社会参加を促す仕掛けが不十分であり、課題が残っているということが明らかになった。

### 3. 学習者の獲得と学習者数について

企画時に想定していた日本語能力の学習者が参加した。また、妊娠・出産・帰国という特別な事情がある場合以外は、どの学習者もある程度継続して通うことができていた。しかし、子供の長期休暇の時期やクリスマス・旧正月など学習者の文化での年中行事がある際は、学習者数が減少することがあった。

一方、豊島区内のほかの日本語教室が学習者の日本語能力を判断し、本教室を紹介することによって参加する学習者もあり、地域の日本語教室の連携が取れてきているといえよう。

## (3) 今後の改善点について

### 1. 日本語能力の向上と社会文化知識の習得について

・学習者のアンケートでは、学習した場面以外では、日本語を使うことが難しいという回答があったが、教室内の学習語彙や表現に関しては、汎用性が高いものを提示している。そのため、教室外において、提示しているテーマとは違った場面での使用を示す活動など、汎用性を示せるような教室活動が望まれるだろう。

・「読み」「書き」の能力の向上については、授業内で十分に時間をかけているとは言い難い。学習者のアンケートから、自宅でできる予習や復習など宿題を提示してほしいという意見もあり、教室外での学習ということも視野に入れ、支援したいと考える。

### 2. 継続的・自律的な学びにつながる力の養成について

・教室内の時間において、学習者が短期目標以外の長期・中期目標を振り返る機会を設けることができなかった。そのような機会を設け、継続的・自律的な支援を続けていくことが必要だと考える。

・インタビューにより、本教室修了後、他の教室、または公民館で行われているサークルへの参加など、学習機会の維持や社会参加を促す仕掛けが不十分であることがわかった。他の日本語教室に連絡するなど学習機会の維持や社会参加に必要な行為を支援するためのテーマをコースに盛り込む必要があると考える。

### 3. 学習者数の維持

学習者の子供の長期休暇の時期やクリスマス・旧正月など学習者の文化での年中行事がある際は、学習者数を維持することが難しかった。そのため、開講時期等を再検討する必要があると思われる。

日本語教育の実施【活動の名称:「学ぶ力」を身に付ける「生活のための日本語」教室 <教室B:読みを中心としたクラス>】

目的・目標	1. 在住外国人が地域社会で安全かつ快適な生活を送るために必要となる「読み」に関わる日本語を身に付ける。日本語を使用する上で必要となる社会文化知識を理解する。 2. 日本語学習及び日本語使用に対する動機付けを高める教材・学習ポートフォリオを活用し、有効な活動を実施することを通じ、継続的・自律的な学びにつながる力を養う。								
対象	・豊島区及び近隣地域在住・在勤の外国人。 ・ひらがな・カタカナの読み書きはできるが、漢字の読み書きが難しい外国人。								
取組の内容	・基本的な方針・内容等は前出の「教室A:わくわくクラス」と同様である。日本で生活する上で必要となる漢字の読み書きに困難を抱えている学習者に対し、「漢字を読む」に内容を特化したクラスを設けた。わくわくクラスで実施する「読み書き」の内容とも連動し、重複のない内容とした。 ・「標準的なカリキュラム案」を参考とし、スーパーの商品のアレルギー表示やレストランでのメニューなど、日本で生活する上で必要度が高いと思われる読む行為をテーマに扱った。スマートフォンアプリやインターネット辞書を利用しながら、漢字の読みやメールの書き方を学び、自律的・継続的な学習を促した。								
実施期間	平成30年1月13日～平成30年2月17日			曜日・時間帯		土曜日(14:00～15:30)			
開催回数	全7.5時間(1回1.5時間×5回)			開催場所		学習院大学			
参加者	総数 6人 (日本語学習者 5人、協力者 1人)			使用した教材・リソース		目玉作成教材(参照【日本語教育のための学習教材の作成】自律的な学びを促す「生活のための日本語」教材 副教材第26課～30課)			
出身・国別内訳(人数)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン
	0	0	0	0	0	0	0	0	2
ミャンマー(1人)、シリア(1人)、セントルシア(1人)、日本人(1人)									
カリキュラム案活用	参加学習者の背景や滞在目的、言語環境、日本語使用場面、日本語能力等を把握した上で、「標準的なカリキュラム案」に準拠したコースデザインを行った。また、学習者の自律的な学びの促進、日本語能力の把握、学習の成果及び本取組の効果を把握するために、「日本語能力評価について」を参考に、ポートフォリオを開発しており、それに修正を加えつつ使用した。								

日本語教育の実施内容									
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名	
1	平成30年1月13日(土) 14:00～15:30	1.5	学習院大学 西1号館 202室	4	買い物	スーパーのチラシや商品ラベルを読み、希望する商品を購入できることを目標に、生産地やアレルギー表示にある漢字を学習し、チラシを読み、実際に購入したい商品を選ぶ。	杜長俊	なし	
2	平成30年1月20日(土) 14:00～15:30	1.5	学習院大学 南1号館 106室	3	レストラン	メニューや食券券売機の表示を読んで、食べたい料理やその量(大盛、並盛など)を注文できることを目標に、大きさを示す漢字などを学習し、実際に食券を読み、食べたい料理と大きさを選ぶ。	杜長俊	なし	
3	平成30年1月27日(土) 14:00～15:30	1.5	学習院大学 南1号館 106室	4	電車	電車の表記や駅の電光掲示板を読んで、電車の種類(各駅や特急など)や電車の運行状況がわかることを目標に、電車の速さの種類や電光掲示板でよく使われる漢字を学習し、教師と目的の場所まで行くためのロールプレイを行う。	地引愛	なし	
4	平成30年2月3日(土) 14:00～15:30	1.5	学習院大学 南1号館 105室	3	お知らせの手紙	断水、停電など住居に関わるお知らせの手紙を読み、適切な行動がとれることを目標に、お知らせでよく使われる漢字を学習する。その後、実際のお知らせの手紙の読み取りを行い、詳細を知った上で、教師と予定を尋ねるロールプレイを行う。	杜長俊	なし	
5	平成30年2月17日(土) 14:00～15:30	1.5	学習院大学 西1号館 202室	1	メール	イベントへの誘いや遅刻をメールやテキストメッセージ等で連絡できることを目標に、約束や遅刻を伝える表現を練習し、実際に教師にメールを送る。	秋山文葉	なし	

## (1) 特徴的な活動風景(2~3回分)

### ○取組事例①

【第2回 平成30年1月20日】

教室で学習した漢字を教室外のもの(実物)で、探すという活動を行った。メニューや食券売機の表示を読んで、食べたい料理やその大きさを注文できることを目標に、大きさを示す漢字などを学習し、実際に食券を読み、食べたい料理と大きさを選ぶ活動を行った。学習する漢字について知っていることや漢字の特徴について話している様子。(写真:左) 学習する漢字を覚え、練習している様子。(写真:中央) 実物(食券)から学習した漢字を探している様子。(写真:右)



### ○取組事例②

【第4回 平成30年2月3日】

教室で学習した漢字を教室外のもの(実物)で探し、適切な行動をとるという活動を行った。断水、停電など住居に関わるお知らせの手紙を読み、適切な行動がとれることを目標に、お知らせでよく使われる漢字を学習した。その後、実際のお知らせの手紙の読み取りを行い、在宅しなければならない日時を予定表に書き込んだ上で、出掛ける誘いに対応するロールプレイを行った。お知らせの手紙の内容を読み取っている様子。(写真:左) 自分の予定と手紙の内容を予定表に書いている様子。(写真:中央) 予定表をみながら、誘いに対応している様子。(写真:右)



## (2) 目標の達成状況・成果

### 1. 日本語能力の向上と社会文化知識の習得について

・継続的に通い続けた学習者(3名)を対象に、教室の内容や自分の日本語能力を振り返るアンケートを行った。アンケートによると、どの学習者も、教室に通ったことによって、日本語が上手になった、日本で生活しやすくなった、日本の文化・社会・習慣の知識が増えたなど日本語能力の向上と社会文化知識の習得について肯定的な自己評価をしていた。授業外でのインタビューにおいて、具体的な行為について尋ねると、スーパーの商品の材料表示が読めるようになった、商品や食品のサイズの表記がわかるようになったなど、学習した場面においてできる行為が増えたという意見が聞かれた。

以上のことにより、日本語能力の向上と社会文化知識の習得について、一定の成果があったと思われる。しかし5回という回数であったため、学習者の能力の向上を見ることは難しかった。

### 2. 継続的・自律的な学びにつながる力の養成について

継続的に通い続けた学習者を対象おこなったアンケートにより、スーパーの商品の材料や電車内の表示を読むようになった、漢字学習への動機が上がったという意見があり、継続的・自律的に漢字を学ぼうとする学習者の学習態度の変容が見られた。継続的・自律的な学びにつながるようなきっかけづくりになったと考えられる。しかし、5回という回数が少ないという意見もあった。

・教室以外での学習、教室で提示された内容・方法による漢字学習が促された様子は見られなかった。このことから、継続的・自律的な学びにつながる力を養うために、多様な漢字学習方法や漢字認識方法を提示・共有するべきであったと考える。

### 3. 学習者の獲得と学習者数について

本クラスは、ひらがな・カタカナの読み書きはできるが、漢字の読み書きが難しい外国人を対象とした。想定した読み書き能力を持つ学習者が集まったが、人数は想定より少なかった。豊島区HPの日本語教室情報ページという広報方法を行ったが、この方法だけでは「読み」を必要とする学習者に情報を届けることができなかったのではないかと考えられる。

## (3) 今後の改善点について

・学習した場面以外での、漢字学習が促進されている姿を見ることができなかった。継続的・自律的な学びにつながる力を養うために、漢字学習の方法や漢字認識の方法などを提示、共有を促す機会を授業内で設ける必要があるだろう。

・学習者の確保が難しかった背景には、「読み」を必要としている学習者へ情報が届かなかったという理由の他に、開講回数やニーズの違いが挙げられる。実際、参加者からも開講回数が少ない、レシピを読みたいという声があった。その点を考慮し、改善を行う必要があるだろう。



日本語教育を行う人材の養成・研修の実施【活動の名称:「自律的な学びを促す環境作り」を目指した研修】									
目的・目標	豊島区は外国人居住者が多く、また急増している地域である。平成30年1月1日現在、2万9千人を超える外国人が居住し、区内全人口の10%を超えた。しかし、地域の日本語教室は少なく、継続的に通う学習者も必ずしも多くない。したがって、継続的・自律的に学習するための環境作りが求められる。本研修では、学習者の自律的な学びを促すために必要な学ぶ力や日本語能力、学習環境、日本語使用実態に配慮した授業計画・運営のできる人材を育成する。								
対象	豊島区及び近隣区域内に在住・在勤・在学中、「生活者としての外国人」に対する日本語教育にすでに携わっている方々								
取組の内容	講座タイトル:地域日本語教育ブラッシュアップ講座「自立を促す日本語学習の場を作ろう」 日本語学習・日本語使用に対する動機づけ、動機の維持を促す活動、学ぶ力の育成方法、リソース活用、学習環境作り、等をテーマに研修を実施した。従来行っている授業や教室活動を批判的に振り返りつつ、日本語学習者の視点や学習環境を十分に意識した活動を具体的に検討・実施する過程を組み込む。講師には、教室活動、リソース利用、教材開発、学習環境作り、教師教育の専門家をお呼びした。全10回の研修を通じ、研修参加者が主体的に自身の成長に取り組むために、自身の活動の見直し、課題の設定、新たな試み、振り返り、といったプロセスが具体化された「研修受講者用ポートフォリオ」を取り入れた。								
実施期間	平成29年 7月15日～平成30年 3月 3日			曜日・時間帯		土曜日(14:00～17:00)			
開催回数	全 30時間 (1回 3時間 × 10回)			開催場所		学習院大学			
参加者	総数 18人 (日本語学習者 人、指導者・支援者 18人など)			使用した教材・リソース		各回の講師が配布資料、PPT資料等を作成			
出身・国別内訳 (人数)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン
	1人								
カリキュラム案活用	講座の中で、「標準的なカリキュラム案について」を参照した講義やカリキュラム案の紹介が行われた。(第2回、第3回、第9回) 「指導力評価について」を参照し、「研修受講者用ポートフォリオ」を作成した。								
養成・研修の実施内容									
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師名	補助者名	
1	平成29年7月15日(土) 14:00～17:00	3	学習院大学 西1号館201	13	「自立」とは何か考えよう	「自立」とは何か、自立を促す日本語学習の場をつくるにはどのようなことが考えられるか、事例をふまえながら考える。	唐木澤みどり	岩藤かおり	
2	平成29年8月5日(土) 14:00～17:00	3	学習院大学 西1号館201	13	なぜ、「自立」?	どうしたら「自立」を促す一歩を踏み出すことができるのか、各種の活動を通して、検討する。	金田智子	冷俊俊	
3	平成29年9月2日(土) 14:00～17:00	3	学習院大学 西1号館201	14	多文化共生社会と日本語教室	地域の日本語教室の活動のあり方として、なぜ「対話」と「協働」が重要なのかを考え、具体的な活動事例を示し、教室活動をつくる力を養う。	米勢治子	地引愛	
4	平成29年10月14日(土) 14:00～17:00	3	学習院大学 西1号館201	17	学習者が自分で探し、見つける日本語の仕組み	発音、文字、語彙、文法の指導の発想を変え、学習者が自分で日本語の仕組みを探し、見つける活動について考える。	品田潤子	秋山文菜	
5	平成29年10月28日(土) 14:00～17:00	3	学習院大学 北1号館301	18	学習者オートノミーとは何か	学習者オートノミーとは何か、なぜ必要か、なぜ「教える」ことが学習者オートノミーの邪魔になりうるのかについて知り、邪魔をしない支援について考える。	青木直子	冷俊俊	
6	平成29年11月18日(土) 14:00～17:00	3	学習院大学 西1号館201	14	学習者オートノミーを支える学習支援	学習者がすでにもっている学習者オートノミーを尊重しつつ、さらに学習者オートノミーを発達させるための道具や活動、学習支援者に必要な知識やスキルについて考える。	青木直子	岩藤かおり	
7	平成29年12月9日(土) 14:00～17:00	3	学習院大学 西1号館201	12	Task Based Language Learning(TBLT)って何?	プレイルドで内容重視のタスクで学びあう。「あなたならできる、できた、わたしはできる、できた」、そんな学びの連鎖をデザインする。	島田徳子	社長俊	
8	平成30年1月13日(土) 14:00～17:00	3	学習院大学 西1号館201	15	お互いの実践を紹介し合おう・見直そう	各自の実践(活動、教材等)を共有し、意見交換や悩みを相談し合うことを通して、よりよい実践に向けて考える。	唐木澤みどり 金田智子	秋山文菜	
9	平成30年2月24日(土) 14:00～17:00	3	学習院大学 中央教育棟 507・508	35 (内、公開講座参加者 22)	<公開講座> 1. 講演「地域日本語教室を築立つための」 2. 大公開:自立を促すための教材・活動	「地域日本語教室を築立つために」と題した講演と、受講者による「自立を促すための教材・活動」の発表を行う。公開講座として、関心のある方々と広く交流する。	西原鈴子 (講演)	地引愛 秋山文菜 冷俊俊	
10	平成30年3月3日(土) 14:00～17:00	3	学習院大学 中央教育棟 507	12	自立を促す日本語学習の場―「これまで」と「これから」―	講座全体を振り返り、講師のコメントを交えながら日本語学習の場の「これまで」と「これから」を考える。	品田潤子 唐木澤みどり	地引愛	

## (1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

### ○取組事例①

【第8回 平成30年1月13日】

講師：唐木澤みどり・金田智子 テーマ「お互いの実践を紹介し合おう・見直そう」

\* 事前に配付した「私が考える自立を促す教材・活動」紹介シートを予め記入してきてもらい、そのシートを参考にしながら活動を行った。

1. 昨年度の発表の様子を紹介及び今年度の発表方法の説明(全体)
2. 自分の実践の紹介の仕方を考える(個別活動)：紹介の段取り、伝えたいこと、意見交換したいことをワークシートにまとめる。【写真左】
3. 実践紹介と意見交換(グループ活動)：自分や他の人の実践紹介と意見交換を通して振り返り、ヒントや改善点(わかりにくいところ、工夫が必要なところ等)をメモする。(グループを替えて複数回行う)【写真右】
4. 各自の改善ポイントを発表する。(全体)
5. 「振り返りシート」(ポートフォリオ)と「アンケート」を記入する。



### ○取組事例②

【第9回 平成30年2月24日】

第9回は公開講座とし、受講者以外にも地域日本語教育に関心のある方々にお越しいただき、広く交流する機会とした。

第1部：講演「地域日本語教室を巣立つために」(西原鈴子 非営利活動法人日本語教育研究所理事)【写真左】

生活者としての外国人が地域日本語教室の「学習者」から巣立つことの重要性和、巣立つためには「地域への人口戦略」としてだけでなく、「社会への出口戦略」としての支援を考えるとのお話があった。「自立を促す日本語学習の場を作ろう」という本研修のテーマにも通じる内容に、参加者からは質問や新たな気づきや共感等の感想が得られた。

第2部：「大公開：自立を促すための教材・活動」(受講者によるポスター発表)【写真右】

第7回までの専門家による「自立」を共通テーマとした講義や活動を通して学んだことを活かして受講者自身が考えたり、実践したりした「自立を促すための活動・教材」を発表した。事前に作成したポスター(A0サイズ)と、教材等の資料を展示し、公開講座の参加者と活発な意見交換が行われた。



## (2) 目標の達成状況・成果

- ・本研修は、地域の日本語教育に携わっている方を対象とした地域日本語教育ブラッシュアップ講座として、「自立を促す日本語学習の場を作ろう」というテーマで全10回行った。各回において、「自立」という共通のキーワードのもとに、教室活動、教材作成、学習環境、自律学習等さまざまな分野の専門家を講師に迎え、自律的・継続的な学習を可能とするためのヒントを共有した。各回で実施したアンケートの結果によると、新しい知識や情報を得られたかを問う質問に対し、全ての回で「おおいにあった」または「あった」という回答が100%であった。内容全体についても、「とてもよい」または「よい」という回答が平均96.7%と満足度も高かった。さらに、考えの深まりについての質問には、「おおいに深まった」または「深まった」という回答が平均97.8%と高いことから、「学習者に自立を促す日本語教育」というテーマが、受講者がこれまで考えていた地域日本語教育の捉え方と異なり、自らの実践を振り返る上でも、新たな刺激になったと考えられる。
- ・新たな試みとして、受講者の研修と実践の振り返りのために、「研修受講者用ポートフォリオ」を導入した。第1回で自らの日本語教育との関わりと日本語教育実践について振り返り、課題を設定した。毎回の講座では「学んだこと」「課題解決のためのヒント」等を振り返りシートに記入し、配付資料と共にファイルし、いつでも振り返りができるようにした。全10回終了後に昨年度から引き続き参加している3名の受講者にポートフォリオの効果についてインタビューを行ったところ、ポートフォリオにより、振り返りがしやすくなり、自身の実践の振り返りや講座で行われた実践紹介や発表のためだけでなく、普段の実践にも研修の内容を活かせるようになり、役に立ったという評価を得た。
- ・昨年度からの改善点として、研修の中で受講者の実践の振り返りや共有、改善していくための活動を多くとり入れた。最終回の受講者のアンケートの記述欄からは、「振り返りを十分できた。」「内容(理解)が深まった。」「などの声が寄せられた。

## (3) 今後の改善点について

- ・本研修はブラッシュアップ講座として行っているが、各受講者の地域の日本語教育への関わり方や経験年数、研修受講経験等に関しては多様である。そのため、新しい知識・情報が多かった今回の研修では、受講者アンケートの中の内容のわかりやすさについての質問に対して「ちょうどよい」との答えは平均して8割弱と、他の質問に比べて少し低い結果となり、「難しかった」と答えた受講者が若干名存在していた。全ての受講者に「ちょうどよい」講座を提供することは非常に困難なことであるが、地域の日本語教室にも多様な学習者が集まることから、今後の課題として検討していきたい。
- ・その解決策として考えられることの一つとして、一人で学び、課題を解決するのではなく、仲間と協働して学んだり、解決策を検討することは有効であろう。学習者としても、支援者としても、他者と協働することにより、一人では困難なことも乗り越えられ、より良い学び、より良い支援の可能性が広がると考えられる。その点を次年度には取り入れていきたい。
- ・本研修で新たに導入した「研修受講者用ポートフォリオ」は、受講者自身の研修や実践への振り返りに役に立ったと一定の評価が得られた。しかし、各自が個々に記入し活用するだけにとどまった。よりよい活用に向けて、活用の仕方そのものを検討したり、フォームを見直すなどの工夫をしていく必要がある。

日本語教育のための学習教材の作成【教材の名称：自律的な学びを促す「生活のための日本語」教材の開発】			
目的・目標	生活者としての外国人が自身の日本語学習を展望・管理できる教材、日本語学習及び日本語使用が促される教材を開発する。教材開発を通じ、在住外国人が日本語学習を継続できる環境を整える一助とする。		
対象	東京23区在住外国人で、日本社会で生活する上で必要となる日本語が身に付いていない方		
教材の内容	<p>「生活者のための外国人」に対する日本語教育は、週2時間程度の対面学習をいかに豊かなものにするかが重要である。教室外の時間をいかに日本語学習に費やすように促すか、いかに日本語使用の機会を増やすものとするかは、各人の日本語能力伸長に大きな影響を与える。同時に、日本語教室以外での日本語使用を促すことは、在住外国人の日本社会への参入を推進し、日本での生活を安心・安全・快適なものとする。本取組では、学習者が日本語学習を自律的に行うことを促す活動、日本語でやりとりする交流関係を築くための日本語学習を行うための教材を開発した。特に、生活に必要な「読む」能力に焦点を当て、「読む」ためのスキルを身に付ける活動、「読む」ための人的・物的リソースの活用を教材化した。</p> <p>&lt;教材内容&gt;</p> <p>1. 学習ポートフォリオ (ポートフォリオの使い方、コースの前に、セッションの後に、このセッションで勉強すること、教室内の目標と振り返り、教室外の目標と振り返り、活動記録&lt;下記⑤&gt;)</p> <p>2. 日本語学習教材(主教材) * 以下は、各課のタイトル(場面)及び【標準的カリキュラム案の番号】 第1課 「おはようございます！」(あいさつ)【VII 14(31)07】 第2課 「これ、お願いします！」(買い物)【III 5(08)20】 第3課 「なぜ薬がほしいんですけど…」(薬局)【I 1(02)02】 第4課 「ネクタイは何階ですか？」(道聞き)【III 5(06)06】 第5課 「浅草に行きたいんですけど…」(電車)【IV 7(10)02】 第6課 「これは何ごみですか？」(ごみ分別)【VIII 15(34)02】 第7課 「郵便局に行きたいんですけど…」(道聞き)【IV 8(12)05】 第8課 「禁煙をお願いします。」(レストラン)【III 05(08)25】 第9課 「おすすめは何ですか？」(レストラン)【III 05(08)26】 ★第10課 「いつもので」(近所の人と話す)【VII 14(31)07】 第11課 「助けてください」(地震・火災)【I 02(05)03】 ★第12課 「どうやって使いますか？」(防災)【I 02(05)04】 第13課 「祖父が倒れています！」(救急車を呼ぶ)【I 2(5)07】 第14課 「初めてなんですけど…」(初診受付)【I 1(01)02】 第15課 「昨日からです。」(診察)【I 1(01)03】 第16課 「財布をなくしたんですけど…」(落し物)【I 2(04)】 第17課 「検診を予約したいんですけど」(健康診断)【I 1(03)01】 ★第18課 「ご出身は？」(近所の人と話す)【VII 14(31)】 第19課 「これ試着したいんですけど…」(試着)【III 5(08)12～14】 第20課 「これ、タイに送りたいんですけど…」(郵便)【X 21(45)01～02】 ★第21課 「冬休みは、何をしますか？」(近所の人と話す)【VII 14(31)】 ★第22課 「これ、タイのおみやげです。」(近所の人と話す)【VII 14(31)】 第23課 「休みの日は何をしますか？」(近所の人と話す)【VII 14(31)】 第24課 「時間ありますか？」(誘い)【VIII 16(35)03】 第25課 「カレーが入っています」(文化紹介)【VII 14(32)】 ★第26課 「ウィラーと呼んでください」(自己紹介)【VII 14(31)】</p> <p>★で示した課は、平成29年度新規作成。それ以外の課は平成28年度作成平成29年度改訂。</p> <p>* 各課の構成は以下の通り。 ①導入(生活場面への意識を高め、現状を把握し学習動機を引き出す) ②練習(言う練習、読む練習、音声を用いた練習等) ③会話スクリプト(一連の行動について達成度合いを確かめる) ④語彙リスト(自らのレベルに応じ、理解語彙・使用語彙の数を増やしていく) ⑤活動記録(対面学習の成果について自己評価・他者評価) ⑥復習(授業で行った練習やタスクを自宅で練習する)</p> <p>3. 日本語学習教材(読み中心の副教材) 第1課 名前をカタカナで書く 第2課 メニューを読む 第3課 メニューを読んで注文する 第4課 ドラッグストアの薬の表示を読む 第5課 「つ」と「っ」の違いがわかり、発音をする 第6課 ゴミの注意書きを書く 第7課 「よ」と「ょ」の違いがわかり、発音をする 第8課 店の前のメニューボードを読む 第9課 セットメニューを読む 第10課 申込書の「名前」を書く場所が分かり、そこに名前を書く 第11課 申込書の「住所」「生年月日」「電話番号」を書く場所を探す 第12課 申込書に「名前」「住所」「生年月日」「電話番号」を書く 第13課 返信用封筒に自分の住所を書く 第14課 申込書に「生年月日」(西暦・和暦)を書く 第15課 紛失届に「いつなくしたか」「どこでなくしたか」を書く 第16課 検診の申込書を書く 第17課 お知らせを翻訳アプリで読む 第18課 携帯電話で日本語の入力をする 第19課 年賀メールの内容を考える 第20課 年賀メールを送る 第21課 旅行の写真を送る 第22課 旅行の写真を添付されたメールに対して返信をする 第23課 遅刻・欠席の連絡をする 第24課 約束の日程調整の連絡をする 第25課 イベントに誘う 第26課 スーパーのちらしや商品表示を読む 第27課 レストランのメニューを読む 第28課 駅・電車の表記を読む 第29課 お知らせを読む 第30課 SNSを使う</p> <p>* 読み中心の教材の構成は以下の通り。 第1課～第9課 読みの基礎を身につける 第10課～第25課 読みの基礎を生かし、「申込書を書く」「メールを書く」いう書きのスキルを身に付ける 第26課～第30課 生活場面における読みのスキルを中心にした総合的な活動を行う ※第1～第25課:教室Aの10分コーナーで使用、第26課～第30課:教室Bで使用。</p>		
実施期間		成果物のリンク先	
作成教材の想定 授業時間 コマ数と頁数	2.5時間 × 30回 + 1.5時間 × 5回 = 82.5時間分	教材の頁数	295ページ



## 4. 事業に対する評価について

### (1) 事業の目的・目標

1997年から実施している日本語教室を基礎として、2013年度以降、若者世代向けと生活者向けの二つの日本語教室を実施してきた。2017年度は、外国人の生活者としての学習ニーズや学習環境に合わせた日本語教育プログラムを実施しつつ、生活のための日本語を自律的に学ぶことを促す教材の開発を行う。さらに、自律的学びを促す教室活動やプログラム設計を行う人材の育成を目的とした研修を実施する。各種公共施設、交流団体などの協力も得ながら教材を作成し、一般社会の人々の地域に暮らす外国人及び彼らの日本語学習に対する理解を深める。日本語教育を通じ、知(地)の拠点として、地域に開かれた大学となることをめざす。

### (2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

1.外国人の生活者としての学習ニーズや学習環境に合わせた日本語教育プログラムの実施  
企画段階では、1教室(全30回、75時間)のみの実施の予定であったが、参加が想定される学習者のニーズや学習環境(学習者のニーズと学習環境の多様性)を考慮し、2教室を設定した。これにより、一方に対しては、日本での生活を始めるにあたって必要となる日本語を学ぶ機会、日本語の文法や文字についての基礎知識を獲得するための教室活動を提供し、もう一方では、生活に必要な「読む」能力に焦点を当てた、「読む」ためのスキルを身に付けるための教室を提供することができた。  
生活のための日本語を自律的に学ぶことを促す教材の使用や教室活動を通して、学習者が授業時に教室外の実践を話したり、避けてきた漢字学習を、アプリや市販の漢字教科書の利用等で自発的に行うなど、自律学習がある程度達成されたと考えられる。一方、自らの学びの場を確保する力がついておらず、地域コミュニティや他の日本語教室への参加など、学習者の学びの場を外に力や準備が不十分であったと考えられる。

2.人材育成を通じた地域日本語教育の充実  
「自立を促す日本語学習の場を作ろう」というテーマに沿った全10回の研修を通して、受講者に新たな情報や知識を提供でき、ポートフォリオを活用することで、講座を通して学んだことを振り返り、実践に結び付けられる人材育成につながったと考える。また、第9回を公開講座とし、「自立」をテーマとする講演と受講者の活動の発表を行うことにより、より広く地域日本語教育の充実に貢献できたのではないかと。公開講座には、豊島区内や近隣区のみならず、神奈川県や三重県からの参加もあり、教室の代表やコーディネーターなどの参加もあった。アンケート結果からも、新しい情報・知識や考えの深まりについての肯定的な答えが100%となっており、受講者以外の参加者にも評価された。

3.自律的な学びを促す「生活のための日本語」教材の開発  
作成教材については、本事業で実施する日本語教室で使用し、次のような成果が見られた。  
・教材の活用に関して、予習・復習をする学習者が多くいた。学習者へのヒアリングでは、予習することで、毎回の授業で何が自身の学びになりうるのかについてしっかり意識できたり、復習することで、学んだことを「やってみよう」「挑戦してみよう」というように、生活での実践に繋がったという声があった。自律学習のリソースとして生かされつつある。  
・対面授業では、教師の指示に対する理解が不十分だった場合において、教材から練習の意図を読み取り、授業活動へのサポートとして学習者が自発的に利用することが多く観察されている。また、学習が遅れている学習者に対して、教材を媒介にした「助け合い」「学び合い」という現象が多く見られている。対面授業を豊かにする教材として一定の成果が見られた。

### (3) 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

・既述のとおり、本事業では日本語教室及び教材作成において、標準的なカリキュラム案に準拠しつつ、学習者の目標や言語環境に応じて、カリキュラム案には含まれていない場面や言語行動を、「生活上の行為の事例の整理」にある項目を参考にして適宜、取り入れている。標準的なカリキュラム案や「生活上の行為の事例の整理」が公表されていることにより、教室のシラバス設計や教材作成において、特定の場面に偏りなくバランスの取れたテーマ設定ができると同時に、生活者である学習者のニーズに合わせた対応ができている。  
・標準的なカリキュラム案も「生活上の行為の事例の整理」も「読む」「書く」が必要な場面や言語行動に限りがある。また、コミュニケーションの媒体の変化や、コミュニケーションを助ける各種ソフト、アプリの発展により、標準的なカリキュラム案の作成時期と比べ、現在の日常生活の中で繰り広げられる読み書きに関する行為は大きく変容している。「読む」「書く」が求められる場面とそこで繰り広げられる言語行動の見直しが必要と思われる。

### (4) 地域との関係者との連携による効果、成果等

・本事業を通して関係者どう連携・協力したか  
・既述のとおり、豊島区に本事業を後援していただき、日本語教室及び研修について、豊島区HPを通じた広報、豊島区施設へのチラシの設置、配布等にご協力をいただいた。運営委員にもなっていただけており、広報に加え、他の日本語教室や組織との連携についての指導・助言をいただき、公民館の利用や健康診断に関する重要な情報もご提供いただいた。豊島区及び近隣地域の「生活者としての外国人」に対する日本語教育の関係者及び興味のある人々への広報が可能となり、特に他の日本語教室との連絡は取りやすくなっている。  
・日本語教室の実施において、公的機関に加え、授業時間内での訪問により、近隣の店舗との関わりができた。日本語学習者の実態について初めて知識を得たという日本人住民もあり、実際の交流を通じて、外国人の使う日本語を理解しようとする意識が高まったといえよう。  
・研修第9回に行った公開講座では、参加者の半数近くが豊島区及び近隣区からの参加で、昨年度受講者や豊島区内日本語教室からの参加も複数あり、地域関係作りに役立った。また、豊島区HPの情報により都外から公開講座に参加する方も複数存在しており、ネットワークの広がりにも貢献できたと考えられる。

### (5) 事業実施に当たった周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

・教室・研修ともに、豊島区HP及び大学HPを通じて広報を行った。また、幼保小中学校や区内日本語教室にチラシを配るなどして、事業の周知をはかっている。日本語教室についてはfacebookを開設しており、随時、情報を掲載し、広報に努めている。また、可能な限り複数言語での発信を行っているが、HPについては、必要な情報にたどり着くまでの言語が多言語化されていないという課題があり、今後解決する必要がある。  
・成果については、本事業の研修で「公開講座」を設け、その中で日本語教室や作成教材について紹介をし、また、文化庁日本語教育大会や研究会等での発表を積極的に行い、成果の発信・普及を図っている。広報という目的だけでなく、学習材の提供という目的も視野に、教材等のネット公開なども検討したい。

### (6) 改善点、今後の課題について

・「自律的な学習を促す日本語教育」をテーマに、3つの取り組みを実施してきた。学習者の自律、指導者・支援者の自律の両方を意識した事業を展開した結果、両者ともに自分自身の状況や目標、具体的な方法に対する意識が高まったと思われる。しかしながら、それは、提示された学習者ポートフォリオや研修受講者用ポートフォリオ及び各種教材の枠組みの中での意識の高まりと行動に留まっている。今後は、ポートフォリオや教材を使いこなし、その枠組みを越えられる学習者像、指導者像を視野に、教室、教材、研修を企画する必要がある。  
・自律的な学びには他者との協働が重要な意味を持つと考え、学びの集団作りを意識した日本語教育、指導者向け研修を行うことを次年度の課題とする計画である。

### (7) その他参考資料

ブラッシュアップ講座ちらし